

1. 調査報告概要表

【認知症対応型共同生活介護用】

作成日 平成20年11月10日

【評価実施概要】

事業所番号	2795600010
法人名	有限会社 ディスカバリー
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所ホリ
所在地	泉南市中小路2丁目1860番の1 (電話) 072-485-1710
評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 20年 10月 24日

【情報提供票より】(平成 20年 9月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 6月 1日		
ユニット数	3ユニット	利用定員数計	27人
職員数	18人	常勤	11人, 非常勤 7人, 常勤換算 17人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	3階建ての	1階 ~	3階部分

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000円			

(4) 利用者の概要 (平成 20年 9月 1日現在)

利用者人数	27名	男性	6名	女性	21名
要介護1	13名	要介護2	9名		
要介護3	4名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	1名		
年齢	平均 82歳	最低	65歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人聖心会 堀病院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

有限会社ディスカバリーが、平成15年に開設した3ユニットのグループホームです。隣接して介護老人保健施設や病院があり、地域の住民に密着した事業運営をしています。職員はそれぞれの個性を発揮して活躍し、認知症の進行の予防を目指して、ゆったりと家庭的な生活を生き生きと送ってもらえるよう支援しています。各居室にはウォシュレット付のトイレと洗面所が設置され、プライバシーが守られ自分のトイレという思いで排泄の自立につながっています。ボランティアの支援も多く、和太鼓や踊り、歌などで楽しんでもらっています。同年代の会話ボランティアとの交流で意欲の出た利用者もおられました。隣接する病院の医師や看護師の支援があり、医療面では利用者と家族の安心につながっています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連科目:外部4) 前回の外部評価の改善項目については取り組みを行っています。利用者と一緒に食事を摂るとい点についても、月1回から始めており、徐々に回数を増やせるよう検討しています。金銭出納帳についても家族の訪問時にサインをもらうことを検討しています。介護計画についても6ヶ月毎の見直しと随時見直しを実施しています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価についても職員全員で評価の意義や内容について考え、ファイルを作成して書き込みを行い、記録に残しています。管理者、計画作成担当者、職員で話し合っ作成しています。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は、市職員、地域包括支援センター職員、民生委員、地区福祉委員、ワークセンター職員、いきいきネット相談支援センター職員、介護支援相談員、地域の小学校教頭、利用者、家族、職員の参加のもと、2ヶ月に1回開催しています。会議で得た意見はサービス向上に活かせるよう努めています。会議を通して催し物を教えてもらい参加しています。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族の面会時には職員が出迎え、連絡事項が記入された「伝言帳」を見ながら、利用者の様子を伝えています。毎月「グループホーム通信」を送付し、行事の案内や生活状況、イベントの写真、お誕生会のお知らせ、職員の異動等について報告しています。預かり金については個人別に金銭出納帳に記入し、レシートはコピーをとり、原本を家族に渡して定期的に報告しています。エレベーターホールに意見箱を設けています。家族が訪問した際や行事の折に、積極的にコミュニケーションを図り、意見、不満、苦情等話し合える雰囲気作りを努めています。寄せられた意見、不満、苦情等は職員全員が把握共有し、迅速に対応するよう心がけています。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の老人会の方々に踊りを見せてもらったり、知的障害者の作業所から和太鼓を演奏してもらったりして交流を図っています。また地域の人が公開している藤の花や寺院のあじさいを觀賞したりして交流しています。グループホーム側からも廃品回収の協力を行ったり、焼き芋を分けてもらったり、また小中学生による体験学習を受け入れたりしています。
重点項目④	

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「個人の尊重」「家庭的な雰囲気作り」「認知症進行の予防」をグループホームの理念として掲げ、ゆったりと家庭的な環境のもとで生き生きと生活してもらえることを目指しています。地域密着型サービスを提供するホームにふさわしい理念の内容を検討中です。		
2	2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は明文化され、ホーム内に掲示しています。ミーティングや会議の際に業務が理念に合っているか確認しています。また、月例会議には地域密着型サービスの意味についても話し合っています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	地域の老人会の方々に踊りを見せて頂き交流しています。また、小中学生による体験学習を受け入れたり、知的障害者の作業所から和太鼓を演奏してもらい、グループホーム側からも廃品回収に協力したり、焼き芋を分けてもらったりしています。地域の人が公開している藤の花や寺院のあじさいを観賞したりして交流しています。地域の本屋に訪問してもらい、利用者の注文を受けて、大人のぬり絵などを宅配してもらっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の改善項目については取り組みを行っています。自己評価についても、職員全員で評価の意義や内容について考えてファイルを作成し、書き込みをしてもらうようにし、記録に残しています。食事を利用者と一緒に頂くという点についても、月1回から始めており、徐々に回数を増やせるよう検討しています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、市職員、地域包括支援センター職員、民生委員、地区福祉委員、ワークセンター職員、いきいきネット相談支援センター職員、介護支援相談員、地域の小学校の教頭、利用者、家族、職員の参加のもと、2ヶ月に1回開催しています。議事録も作成しています。	○	運営推進会議を進める目的や構成を定めた規定を作成されることが求められます。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の主催によるグループホーム間での意見交換会があり、他事業所とも交流しています。市職員とは気軽に相談できる関係になっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時には職員が出迎え、連絡事項が記入された「伝言帳」を見ながら、利用者の様子を伝えています。毎月「グループホーム通信」を送付し、行事の案内や生活状況、イベントの写真、お誕生会のお知らせ、職員の異動等について報告しています。預かり金については個人別に金銭出納帳に記入し、レシートはコピーをとり、原本を家族に渡して報告していますが、家族の確認の日付と署名を得ていない状況です。	○	金銭出納帳に家族が確認した日付と署名を得ることが求められます。
8	15	○ 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	エレベーターホールに意見箱を設けています。家族が訪問した際や行事の折に、積極的にコミュニケーションを図り、意見、不満、苦情等話し合える雰囲気作りに努めています。寄せられた意見、不満、苦情等は職員全員が把握共有し、迅速に対応するように心がけています。		
9	18	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職は最小限に抑えるように努めています。新しい職員が入る時は業務マニュアルに沿って、スムーズになじめるよう工夫しています。認知症の利用者にとってなじみの関係は大切なことであり、今後とも異動を最小限にすることが望まれます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、内部研修ともに参加する機会を設けています。大阪認知症高齢者グループホーム協議会での交流や研修会に参加しています。法人内の専門家より「感染症」や「緊急時対応」について学んでいます。どの職員も参加できるように配慮しています。伝達研修の実施や資料についても整理し、職員が閲覧する機会も作っています。新人研修については、マニュアルを作って活用しています。また、研修報告書の提出もあります。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大阪認知症高齢者グループホーム協議会に加入して会合に参加し、他事業所とも交流しています。また、市主催の情報交換会に出席し、同業者との交流を通して質の向上に取り組んでいます。さらに、他のグループホームと予定を合わせて合同でお花見を一緒にするなど、交流の機会もあります。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族は見学に来訪した際、利用にあたっての説明を行い、不安を与えないよう配慮しています。利用開始まで事実上待機となるので、利用できる状態になると自宅へ訪問して説明し、相談に応じています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	油絵を描かれていた方が大人の塗り絵で力を発揮するなど、利用者の得意なことを支援しています。また料理を教わったり、野菜の切り方、味付け、その他縫い物が得意な方には靴下に名前を刺繍してもらったりしています。職員は習字や昔話など利用者から楽しく教わり、利用者の特技を活かせるよう支援しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に利用者、家族等から希望や意向を詳細に聞き取り、入居後に望む日々の暮らしを把握しています。利用者から情報を得ることが困難な場合は、家族や関係者から情報を得たり、利用者の日々の表情、言動から意向を汲み取るなどして、利用者本位の介護に努めています。フェイスシートを作成し、全職員が共有し、利用者の声かけ、意向の把握に役立たせています。居室にはポットや冷蔵庫、調味料を持ち込まれる方もおられ、見守りながら支援しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月1回全職員が参加して、介護計画についての話し合いをしています。入居時に利用者、家族、関係者からアセスメントを取り、利用者の希望に沿える計画になるようにしています。サービス担当者会議は関係者にも参加してもらい開催しています。またアセスメントシートを作成し、ライフスタイルについては図面でわかりやすく記入し、身近で細かな情報を収集しています。作成した介護計画書について利用者、家族からの同意のサインもあります。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画については、6ヶ月ごとに見直しを行っています。目標については、日々の記録やミーティング、毎月の会議での話し合い、利用者の状態変化や状況を把握しています。また担当者会議に出席できない家族には毎月書面にて計画内容の報告と意見をもらっています。アセスメント記録、カンファレンス記録、モニタリング記録や見直された介護計画書もあります。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体の病院や陋見が隣接しているため、夜間や急変時に相談や受診ができます。また、精神科病院へは、家族の了解を得て通院の支援をしています。市の介護相談員も訪問しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望があれば、以前からのかかりつけ医師や医療機関で引き続き医療が受けられます。週に1回往診と訪問看護があります。往診は内科や歯科、眼科です。受診結果については家族に電話で報告し、伝言帳に記録し伝えていきます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在対象となる利用者はいませんが、将来利用者が重度化し、終末期を迎えた場合のホームとしての対応方針を決め、家族と話し合いながらその準備をしています。家族の付き添いが困難で入院することができなかった利用者があり、その際、日に2回点滴を受けるため、ホーム職員が病院に連れて行ったという事例があります。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員一人ひとりが、利用者を尊重する対応を心がけています。個人記録等は利用者の目に触れないよう保管しています。個人情報使用同意書も作っています。利用者の誇りやプライバシーには注意を払い、職員の言葉遣いも丁寧です。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食後部屋で横になる方や、新聞を広げ読んだりする方など一人ひとりのペースを見守っています。事業所としての日課はありますが、利用者の意向に合わせて支援しています。気候や利用者の状態を確認しながら、常に臨機応変に取り組んでいます。利用者が過ごしやすい場所を把握して、家具の配置などにも配慮しています。リビングでもやしの根を取っている方、パズルを楽しむ方、ぬり絵をしている方、それぞれの楽しみを支援しています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事は食材業者から仕入れた食材を使って職員が調理しています。お米については地域の農家より取り寄せておいしいと喜ばれています。またもやしのひげを取ったり、野菜の皮をむいたり、配膳や下膳、食器洗いにと利用者ができることを一緒に行い活躍の場を設けています。週に2回はお楽しみメニューとなっており、利用者の希望を取り入れて楽しんでいます。また職員は食事時の利用者のサポートをさりげなく行っています。ゆっくりと食事を摂る方の横にさりげなく職員が付き、声をかけるなど利用者一人ひとりのペースを尊重し、急がすことなく支援しています。職員は月1回利用者と一緒に食事をしていますが、今後は一日に一回共に同じ食事を利用者と摂るよう検討しています。	○	今後は検討を重ね、職員は利用者と共に一日に一食以上、同じ場所で同じ食事を摂りながら、食事時の雰囲気づくりに努めることが求められます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者一人ひとりのペースを尊重し、入浴していますが、入浴については週2回となっています。失禁等がある時は、いつでもシャワー浴を実施しています。脱衣室、浴室はゆったりとしたスペースがあり、椅子も設置しています。	○	今後は利用者が週3回、また希望時には自由に入浴できるよう体制整備が求められます。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は毎日のタオル体操やパズル遊びを仕事とし、楽しみながら参加しています。また、季節に合わせたカレンダー作りや、貼り絵を飾ったり、ボランティアの踊りを見たり大正琴を聴いたりしています。洗面所の掃除や手すり拭きなどの役割を発揮し、園芸の好きな方は野菜と一緒に植えて収穫し、楽しんでいきます。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	暖かい土日には、駐車場を利用して職員と一緒にバドミントンやボールで遊んでいます。週に一回外出日を決め、利用者2名職員2名順番で近隣のスーパーへおやつを食べに行くこともあります。春は桜やチューリップや藤、寺院のあじさい鑑賞、秋はコスモスと季節の花見に行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関ドア、エレベーター、各ホールに通じるドアには日中鍵はかかっていません。鍵をかけないケアに取り組んでいます。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策のマニュアルを作成し、法人全体で消防署の協力を得て年2回の消防、避難訓練を行っています。また運営推進会議での報告や協力依頼など、近隣からの支援を求める働きかけをしています。非常用食料品と水の備蓄については特別な対策はありませんが、冷蔵庫や収納庫の在庫があり、最低限の量は確保しています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量については記録を取っています。献立の栄養バランスについては、食材業者の栄養士の支援を得ています。水分摂取量については、現在のところ摂取量が不足しがちな利用者はいないため、記録を取っていません。高齢者は季節や体調によって水分不足が深刻になることもあるため、今後は水分摂取量についても記録を取ってはいかがでしょうか。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関の横には日本庭園があり、季節の花が咲いています。またホールや洗面所には生花も生けられ、訪ねやすい雰囲気になっています。リビングは広々としており、台所のテーブルも利用者がゆったりと座れるよう配置し、ソファでテレビ鑑賞や、ゲーム道具も置いています。また、貼り絵や行事予定表、日めくりカレンダー、献立表も壁に掲示しています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはトイレ、洗面所、収納ダンス、ベッドがあり、清潔に整えられています。窓からは四季の田園風景が眺められます。利用者はテレビ、冷蔵庫、ポット、家族の写真、食器、遺影、植え木鉢が持ち込まれて家庭的な雰囲気になっています。利用者の中には自由に飲み物を入れたり、遺影にお水を供えたり、日記をつけたりと自由に自分の好きなことを楽しんでいます。		